

製造堆肥 調達先に還元

ヨードクリーン クリーン 植物の循環モデル推進

ヨードクリーン（京都府京都市西京区、小石玖三主会長、075・381・0057）は、植物で生産する自社製品の堆肥を原料の調達先で使用する循環型ビジネスモデルの普及に取り組む。池の周辺や建物周辺で得た落ち葉などを集め、堆肥に加工して元の場所で使用する。

元を中心に新モデルの普及に努める考え。同社の堆肥は伐採した植物の枝や葉を原料としている。植物に付着しているバクテリアで枝や葉を分解、堆肥を作り出す。

原料調達先に還元するビジネスモデルの導入実績は、地元企業や役所など8件程度。今後も植物のリサイクル使用を求め

る。目標数値などは設定していない。

一方、今回の堆肥を農地に混入すると二酸化炭素（CO₂）を吸収するとの研究報告もある。そのため同社はCO₂削減による温暖化防止効果などもアピールし、同社製品の販促を進めていく。

同社は京都市内など地